

授 業 科 目 の 概 要			
(専攻科公衆衛生看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域	公衆衛生看護学Ⅰ（原論・保健指導論）	保健師に求められる基本的な資質・能力について理解し、公衆衛生看護の対象、活動方法と活動の場の基本、活動に必要なコミュニケーション技術、理論について学修する。具体的には、傾聴、保健指導などの技術、個人の成長発達、家族支援、保健行動・保健社会学領域の理論を含む。	オムニバス形式 一部共同
	公衆衛生看護学Ⅱ（管理論・統合）	公衆衛生看護管理の構成要素である専門的自律と人材育成方法について、具体的には、公衆衛生看護管理の目的と機能、情報管理、地域ケアの質の保証、人事管理、予算管理、組織運営と管理および保健師教育、健康危機管理について学修する。後半では、全ての講義・演習・実習を振り返り、公衆衛生看護の専門性、課題についての議論を通して、学修を総括する。	オムニバス形式 一部共同
	公衆衛生看護活動論Ⅰ（ライフサイクル対応型）	成長・発達期から学童・成人移行期、成人期、老年期における個人と家族の生活と健康課題（強みを含む）の特性を理解し、学校、産業など各時期の領域別公衆衛生看護活動に関する制度や法規、保健師の役割と活動についてを学修する。	オムニバス形式 一部共同
	公衆衛生看護活動論Ⅱ（健康課題対応型）	精神・感染症・障害・難病とともに生きる人々の生活と健康課題（強みを含む）の特性を理解し、制度や法規、保健師の役割と活動を学ぶ。また、多様な文化的背景をもつ人々や新たな健康課題に対して自立した公衆衛生看護活動を実践していくための態度・知識・技術について演習を通して主体的に学修する。	オムニバス形式 一部共同
	ヘルス・プロモーション演習	健康な人々に対するアセスメント技術、疾病予防・健康増進につながる、個別を中心とした健康づくり支援について学修する。家庭訪問、健康診査、健康教育、特定健診・保健指導の方法、健康づくりに必要な基本的な知識（疾病予防・ライフサイクル別の特徴）、個別支援の計画から評価、関連する行政施策・保健サービス、社会資源・環境について学修する。個人の感染症予防、地域防災などを含む。技術にはコミュニケーションも含まれる。	共同
	地域アセスメント演習	人々の生活の場である地域・集団について各種資料をもとに顕在的・潜在的課題を可視化するとともに、その解決方法を考える。地域・集団に属する全ての人々の健康水準の向上を目指す。演習を通して、公衆衛生看護活動に必要な情報処理・ICTの知識・技術も身につける。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域	公衆衛生看護マネジメント演習	特定のハイリスクな人や家族への支援展開、健康危機管理に関連する制度や法規、それぞれにおける保健師の役割と活動について演習を通して学修する。そのうち、特定の地域や集団を対象に、個の健康課題から地域の健康課題を見出し、集団や社会、環境に働きかける、保健師の地区活動、連携と協働、事業化、施策化について演習で展開する。	共同
	公衆衛生看護学研究	講義や演習・実習を通してそれぞれが見出した公衆衛生看護に関するテーマについて研究的手法を用いて探究するプロセスを通し、公衆衛生看護職に必要とされる、文献購読力、根拠に基づく実践能力・プレゼンテーション能力・施策化能力の基盤を身につける。	共同
関連領域	疫学	公衆衛生看護活動に関係する多種多様な情報を整理、分析し、健康課題を抽出、改善するために必要な、疫学の概念、疾病頻度の指標、暴露効果の指標、疫学調査法、スクリーニング、疾病登録、公衆衛生分野における主な疾患の疫学等について学修する。疫学調査法、社会疫学、政策疫学、臨床疫学、産業保健の疫学を含む内容とする。	
	保健統計学	データの種類と分布、測定と尺度、確率分布、代表値と散布度、関連指標など統計学の基礎、人口動態統計、人口動態統計、生命表、主な健康指標などの人口統計、根幹統計や医療経済統計などの保健統計調査について学修する。情報処理の技術、統計情報の活用方法については公衆衛生看護活動に必要な技術を修得する。併せて、情報活用における人権への配慮、プライバシー保護など倫理的配慮の必要性を理解する。	
	保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政、財政の仕組み、地域における健康課題の解決に必要な社会資源と保健医療福祉サービスとその評価・調整方法について学習する。また、地方公共団体の保健医療福祉に関する計画策定・実施・評価のサイクル、公衆衛生看護の役割・必要とされる能力の基本を学ぶ。	オムニバス形式
	濱ゼミナール	専攻科の所在する地域を拠点として、地域志向性、異文化理解、連携・協働と多文化共生をキーワードに、地域特性や地域資源、地域に暮らす人や組織について主体的、能動的に探究する。ゼミを通して複眼的に公衆衛生看護の専門性、可能性を見つめ、高度専門職業人としての自己のキャリアについて考える。	共同
臨地実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ	神奈川県内の保健所等行政機関における健福祉事業への参加・見学・実施を通して、公衆衛生看護の理念、対象、活動方法に関わる知識や技術を統合し、公衆衛生看護活動を実践する上での基盤となる能力形成を行う。具体的には、地域診断に基づく健康課題の明確化とPDCAサイクルの展開、個別から地域までの連続した支援と連携・協働、健康危機管理、施策化である。加えて、専門的自立と行政保健師としての使命や責任について考える。	共同
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	産業、学校、福祉分野ほか多様な公衆衛生看護活動の場の特性について、組織構造、機能、健康に関わる部署や組織、職種とその機能、特徴的な保健師の役割や活動の実際を学ぶ。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(専攻科助産学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 助産学 領域	助産学概論	助産師として求められる基本的な資質・能力（知識・態度・技術）を習得する上で、基礎となる知識及び概念について学ぶ。具体的には、助産師としての責務と裁量、助産ケアの基礎となる概念、助産倫理や生命倫理を学ぶ。また、女性中心のケア、継続したケアの重要性、母子とその家族の生活を支える地域や文化、社会・環境との関連について学び、実践への活用について考察する。	オムニバス形式
	基礎助産学Ⅰ（産科領域）	助産ケアを行う上で必要な妊娠による女性の変化や、正常な妊娠・分娩・産褥の経過について学ぶ。具体的な内容としては、妊娠の成立とその維持に関する機序、正常な妊娠・分娩・産褥期の生理、妊娠と栄養、周産期に必要な薬理学の基礎的な知識について学ぶ。	オムニバス形式
	基礎助産学Ⅱ（小児領域）	小児科領域のケアを行う上で必要な胎児・新生児の成長・発達、新生児の胎外生活への適応過程について学ぶ。具体的な内容としては、胎児の成長・発達、新生児の胎外生活適応の過程、妊娠・分娩・新生児期で正常を逸脱した異常の病態生理・治療について学ぶ。	
	ウイメンズヘルス	女性の生涯を通じた健康課題とその健康支援に向けて、ウイメンズヘルスやリプロダクティブヘルスに関する基本概念、世界および日本の歴史・動向、社会背景や政策について理解を深め、これからの助産師のあり方や助産ケアについて考える。具体的な内容としては、思春期・更年期・老年期の女性の健康問題とその支援、性感染症とその予防への支援、月経障害を持つ女性への支援、勤労女性への支援、不妊の悩みを持つ女性・家族への支援（男性不妊も含む）女性特有の悪性疾患とその予防への支援について学ぶ。また、女性に対する暴力・子ども虐待に対する感受性を高めるとともに、医師やその他の専門職者との連携の下に適切な援助を行うための基礎的知識を学ぶ。	
	生殖遺伝学	生殖遺伝学の基礎知識を学び、出生前診断、遺伝カウンセリングのあり方、遺伝に関する諸課題について、助産師としてどのように捉え、どのような支援が必要かを考える。	

実践助産学領域	助産診断・技術学Ⅰ (妊娠期)	妊娠に伴う母体の変化および胎児の成長・発達を理解し、妊婦が心身ともに妊娠に適応し、快適な生活を送るための基礎知識とその支援方法を学ぶ。具体的な内容としては、妊婦と胎児の状態を把握するための助産診断技術を基に助産診断を行い、妊婦と家族の心理・社会的変化の診断、ローリスク妊婦と家族へのケア、ハイリスク移行因子が高い妊婦への予防と管理の助産ケアを学ぶ。	
	助産診断・技術学Ⅱ (分娩期)	安全で満足のいく分娩体験を得られるように分娩経過を診断し、女性の持つ力を発揮できるように支援するための基本的知識や支援方法を学ぶ。具体的な内容としては、分娩に係る解剖生理、分娩の三要素分娩の経過、分娩中のケア(体位や産痛緩和) 胎児心拍数陣痛図の判読、分娩促進、麻酔分娩などのケアである。また、科目での学びを統合し、分娩期の助産診断を高めるために事例検討を行う。	オムニバス形式
	助産診断・技術学Ⅲ (産褥・新生児期)	褥婦の身体的、心理社会的変化、新生児の生理的变化を理解し、褥婦及び新生児の健康状態を診断するための健康診査技術や母乳育児支援を学ぶ。また、正常からの逸脱の診断とその予防にむけた助産ケアや処置について学ぶ。	オムニバス形式
	助産診断・技術学Ⅳ (乳幼児期)	乳幼児の身体的・心理的・社会的状態の正常・異常が判断でき、母子とその家族の健康増進を支援するために必要な基礎知識を学ぶ。具体的な内容としては、乳幼児の成長・発達、予防接種の概要、主な疾患とケア、乳幼児におこりやすい事故とその予防などである。	オムニバス形式
	助産診断・技術学Ⅴ (ハイリスク)	ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児の助産診断およびケアに必要な基礎知識を学び、正常な経過からの逸脱を診断し、医療介入を要する妊産婦、新生児に対する異常時のケアについて考える。	
	健康教育論	対象者が自己の健康行動をより良い方向に変容できるよう、健康教育に関する基礎知識や理論を理解し、健康教育の企画・運営・評価を行う。具体的には、両親学級や育児サロン、プレコンセプションケアなどを企画し、運営・評価まで一連の指導過程を試行する。	
	助産管理学	病院・診療所、助産所における助産管理、周産期医療体制、周産期における医療安全対策について学び、安全で安心な助産ケアを提供するための助産管理の基本と助産ケアの質保証について理解を深める。また、助産に関連した医療政策、災害対策・支援活動について学ぶ。	オムニバス形式
	地域母子保健論	地域母子保健の必要性および母子保健行政を理解し、母子保健における助産師の役割と母子およびその家族への支援の方法について学ぶ。また、諸外国の母子保健の現状と課題を学び、母子保健政策を推進するための助産師の役割について考える。	オムニバス形式
	地域母子保健活動論Ⅰ (地域母子保健サービス)	周産期におけるメンタルヘルスや子ども虐待予防等に対応するために、地域で生活する妊産婦およびその家族をアセスメントする能力を育み、保健・医療・福祉関係者と連携しながら、妊娠・出産・育児期の切れ目ない母子保健サービスを提供するための方略について学ぶ。	オムニバス形式 一部共同

実践助産学領域	地域母子保健活動論Ⅱ (専門職との協働・連携)	専攻科の所在する地域を拠点として、地域志向性、異文化理解、連携・協働と多文化共生をキーワードに、地域特性や地域資源、地域に暮らす人や組織について主体的、能動的に探究する。ゼミを通して複眼的に助産の専門性、可能性を見つめ、高度専門職業人としての自己のキャリアについて考える。	オムニバス形式 一部共同
	助産学研究	助産実践の質向上のための助産学研究の必要性を理解し、助産学研究のプロセスを学ぶ。具体的には、研究論文のクリティークおよび実習の事例のケース・スタディを通して、助産における研究の位置づけと研究の成果を実践に還元することの意義を理解する。	共同
臨地実習	助産学実習Ⅰ(継続)	妊娠中期の妊婦1名を受け持ち妊婦とし、産後1か月まで継続して実習を行う。妊娠期においては、妊娠の経過の診断を行い、診断の結果から個別性のある保健指導を行う。分娩時には分娩開始から産後2時間迄継続して付き添い必要なケアや分娩介助を行う。また、引き続き産褥早期の母児に対して助産過程を展開する。更に、産後1か月健診に同行しその経過を理解する。また、必要に応じて保健指導を行う。	共同
	助産学実習Ⅱ(分娩介助)	分娩が開始し入院したローリスク産婦産後2時間まで継続的に受け持ち、臨床指導者並びに教員の指導を受けながら分娩介助を行う。分娩介助数は10例程度とする。分娩介助8例目以降は、産婦と共に分娩の振り返りを行う。また、分娩間接介助は出生直後の新生児のケアについても2例程度実施する。	共同
	助産学実習Ⅲ(地域母子保健)	地域における母子保健活動の実際を、保健所での実習(3日間)(オリエンテーション含む)を通し、助産師の役割について学ぶ。	共同
	助産学実習Ⅳ(助産管理)	産科棟の管理について、病院の産科棟に出向き助産実践に必要な安全対策、チーム医療、法律、経営等について実践の場を通して学ぶ。また、助産学の総まとめの実習として助産所で行われる業務を実践を通して考察する。	共同